

## 自然の中で育つオーガニック野菜

### 野菜本来の味を堪能できます

「オーガニック野菜」。どういう意味かご存知でしょうか。

いくつか定義があるようですが、基本的には、数年間、化学肥料や農薬を使用していない土壌で育てた野菜のことを言うそうです。今回は、そんな野菜作りに取り組んでいる園田みね子さん（市木地区・石原）に話を伺いました。

園田さんは、その一部を借り、ラディッシュやパクチー、シヨウガ、セロリなど十数種類の野菜を育てています。収穫できる日を楽しみにしながら毎日の手入れを欠かしません。

園田さんは野菜作りについて「種をまくと芽が出て、成長すると実がなる。そして、自分で育てた野菜を食べる感動。全てが楽しい」と笑顔で話してくれました。

大自然の中で育てられるオーガニック野菜。手間がかかる分、野菜本来の味を引き出すことができますのではないのでしょうか。



市木地区・石原  
園田みね子さん  
一番のお気に入り野菜はラディッシュ。味はもちろん、見た目がかわいらしいところが好きです。



自然に囲まれた畑でたくさんの野菜を育てています

## 子どもは地域の宝

「地域の子どもたちは地域で育てよう」と、市青少年育成市民会議の会長をはじめ、さまざまな分野で青少年育成に取り組んでいる坂田一男さん（福島地区・小路在住）をご紹介します。

児童生徒の登下校時などの安全を確保するために、地域の皆さんが見守りや声掛け活動をしている『福島コミュニティ&スクールガード隊』。現在隊員は46名で、主に福島小・中学校区内で毎日活動をしています。「見守りを続けているのは私だけではありません。市内各地区でたくさんの方が地域のために活動しているんですよ」と坂田さんは誇らしげに話します。

見守りと言っても、ただ見ているだけではありません。「暗くなってきたから、ぼちぼち帰ろかね」「ちゅっと君、自転車はどっち側を走らんといかんちゃろか

ね」など、坂田さんは子どもたちに対する注意や声掛け時の一言にも心を配ります。「何度も繰り返す常習犯は別ですが（笑）、ただ怒鳴りつけるだけでは効果はありませんね。よその子もうちの子と思っ、ときどき冗談を言いながら注意すると、子どもたちは素直に反省してくれますよ」と笑顔で話します。

たくさんの方々を支えられて、安心して登下校できる子どもたちそんな子どもたちの笑顔に囲まれて暮らすまち。まち中に広がる子どもたちの声が、坂田さんの、そして地域の、元気の源かもしれません。



福島地区・小路  
坂田一男さん  
趣味はゴルフ。教職員時代や「串間陸友クラブ」の教え子が会いに来てくれるのが楽しみです。



青色回転灯パトロール車で見守り活動を続けています

## 子どもたちの安全を見守る